

November 6, 2020

**【前日の為替概況】NY株高のリスクオンでドル全面安、対円 103.44 円、対ユーロ 1.1860ドル**

5日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は103.49円と前営業日NY終値(104.52円)と比べて1円03銭程度のドル安水準だった。米大統領選の結果が近く判明し、米政治の不透明感が後退するとの見方が広がると、米国株中心に世界の株式相場が堅調に推移。リスク・オンのドル売りが優勢となり、一時103.44円と3月12日以来約8カ月ぶりの安値を付けた。米メディアによると、民主党のバイデン候補は現地時間5日午後までに264人の選挙人を獲得。過半数の270人に迫っており、同氏の勝利が本日中にも決まるとの見方が強まっている。市場では「選挙結果を巡る不透明感が晴れてきたことで、投資家はリスクをとりやすくなった」との声が聞かれた。加えて、「本日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で追加緩和策が示唆される可能性もある」との観測から、ドル安が進んだ面もあった。

米連邦準備理事会(FRB)は4-5日に開いたFOMCで、市場予想通りFF金利の誘導目標を0.00-0.25%に据え置くことを全会一致で決定。声明では「米経済を支援するためにあらゆる手段を行使し、雇用最大化と物価安定という目標を促進することに全力で取り組む」とし、必要な限り事実上のゼロ金利政策を継続すると改めて表明した。パウエルFRB議長が会見で「最近の感染拡大は特に懸念される」「経済見通しは極めて不透明」「追加の金融・財政支援が必要になる公算が大きい」などと述べたこともドルの重しとなった。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1826ドルと前営業日NY終値(1.1726ドル)と比べて0.0100ドル程度のユーロ高水準だった。米大統領選でバイデン氏が勝利に近付き、米政治の不透明感が後退するとの見方が強まった。大統領と議会の多数派が異なる議会のねじれが続く見通しとなり、民主党が掲げるハイテク企業などへの規制強化の懸念が後退。リスク・オンのドル売りが優勢となり、一時1.1860ドルと日通し高値を更新した。その後の下押しも1.1792ドル付近にとどまった。FOMCが金利政策の維持を決め、ゼロ金利政策の長期化方針を改めて示唆すると1.1844ドル付近まで再び強含んだ。

ユーロ円は3営業日ぶりに反落。終値は122.39円と前営業日NY終値(122.55円)と比べて16銭程度のユーロ安水準。欧州市場ではユーロドルの上昇につれた買いが入り一時123.18円まで値を上げたものの、NY市場ではドル円が下落につれた円買い・ユーロ売りが優勢となり122.34円付近まで下押しした。

**【本日の東京為替見通し】米10月雇用統計を控えて米大統領選挙結果を見極める展開か**

本日の東京外国為替市場のドル円は、米大統領・上下両院議員選挙の結果を見極めつつ、NY株高を受けたリスク選好地合いで続落が予想される。

米大統領・上下両院議員選挙の途中経過は以下の通りとなっている。

【大統領選】(過半数 270) 【上院 100】(過半数 50) 【下院 435】(過半数 218)

・共和党：214 (あと 56 人)	48	192
・民主党：264 (あと 6 人)	47	199

選挙前に予想されていたバイデン第46代米大統領の誕生と上下両院を民主党が多数派を占める「ブルーウェーブ」の可能性が低下していることで、税制改正法の撤回、キャピタルゲイン増税、IT企業の解体、財政拡大により利回り上昇が回避される可能性から、リスク選好のニューヨーク株高、ドル安要因となっている。

10月米雇用統計の予想は、非農業部門雇用者数が前月比+60.0万人(9月+66.1万人)の増加、失業率は7.7%(9月7.9%)となっている。10月の雇用統計の調査対象週(10月12日)の失業保険継続受給者数は775.6万人で、9月の調査対象週の1274.7万人から減少していることで、雇用情勢の改善が見込まれている。10月のISM製造業雇用指数は53.2で9月の49.6から改善、ISM非製造業雇用指数は50.1で9月の51.8から悪化、ADP全国雇用者数は+36.5万人で9月の+75.3万人から増加幅が減少していた。

もし、雇用情勢が悪化していた場合、パウエルFRB議長が記者会見で「追加の金融・財政支援が必要になる公算が大きい」と述べたように、12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での景気刺激策が期待できることで、ドル売り要因となる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、104.00円、104.20円、104.40-70円に断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、103.00円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売り、10日のNYカットオプション、102.50円にはドル買いオーダーが控えている。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ◇ 9月家計調査（消費支出、予想：前年比▲10.7%）
- 08:30 ◇ 9月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比▲1.1%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

## &lt;海外&gt;

- 09:30 ◎ 豪準備銀行（RBA）四半期金融政策報告
- 16:00 ◎ 9月独鉱工業生産（予想：前月比 2.7%／前年同月比▲6.5%）
- 16:45 ◇ 9月仏貿易収支（予想：63.20 億ユーロの赤字）
- 16:45 ◇ 9月仏経常収支
- 21:00 ◎ 10月ブラジル IBGE 消費者物価指数（IPCA、予想：前月比 0.83%）
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：0.10%で据え置き）
- 22:30 ☆ 10月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化 10.0 万人／失業率 8.8%）
- 22:30 ☆ 10月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化 60.0 万人／失業率 7.7%／平均時給、前月比 0.2%／前年比 4.6%）
- 23:00 ◎ マックレム・カナダ銀行（BOC）総裁、あいさつ
- 23:15 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 24:00 ◇ 10月カナダ Ivey 購買部協会景気指数（予想：51.5）
- 24:00 ◇ 9月米卸売上高（予想：前月比 1.0%）
- 24:00 ◇ 9月米卸売在庫（予想：前月比▲0.1%）
- 7日 01:00 ◎ 10月ロシア CPI（予想：前月比 0.4%）
- 7日 05:00 ◇ 9月米消費者信用残高（予想：90.0 億ドル）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

5日 12:20 フライデンバーグ豪財務相

「世界経済の減速は豪州にとって障害」  
「州政府が回復に一段と大きな役割を担う」  
「金融政策によるサポートは限定的」

5日 13:12 黒田日銀総裁

「ETF 買入れは経済・物価に好影響を与えるため」  
「ETF 買入れ、株価自体を引き上げる意図はなく、物価安定の効果がある」

5日 16:16 英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨

「0.1%の据え置きは全会一致」  
「中期的にインフレ目標を達成するために量的緩和を引き上げることへ合意」  
「金融政策の一段の緩和が正当化されると判断」  
「状況が悪化すれば国債買入れペースを拡大する用意」  
「景気見通しは、依然として不透明」  
「個人消費が鈍化した傾向がある」  
「余剰能力削減とインフレ目標 2%の持続的達成に向け進展している明確な証拠が出るまでは、金融引き締めは行わず」  
「20年10-12月期 CPI 予測+0.5%(前回+0.25%)」  
「21年10-12月期 CPI 予測+2%(前回+1.75%)」

5日 18:12 ノルウェー中銀声明

「ノルウェー経済は深刻な景気後退の真っ只中」  
「急激な景気後退と相当の不確実性は、経済状況が正常化する明確な兆候が現れるまで政策金利が維持されることを示唆」  
「コロナ感染率の増加と海外およびノルウェーでの制限措置の拡大により、今後の成長にブレーキがかかる可能性」  
「前半のクローネ下落の影響は弱まっている」

5日 18:28 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「マイナス金利の検討作業、重要性について全会一致」  
「1500億ポンドの追加資産購入により、インフレを2年以内で目標値に戻す」  
「市場はマイナス金利の可能性を織り込んでいるが、中銀はそれを考慮しない」

5日 18:36 ラムステン BOE 副総裁

「2021年の資産購入プログラムの詳細は12月に発表」  
「英 MPC は金融や財政引き締めで経済鈍化が進むことを避けたい」

5日 18:41 ブロードベント BOE 副総裁

「追加の資産購入なしでは金融条件が引き締めへ傾くことを意識」  
「インフレ見通しが悪化した場合、追加の緩和策を実施」

5日 21:24 スナク英財務相

「一時解雇スキームの延長を決定」  
「賃金の8割を支払う」  
「最優先事項は産業を保護すること」  
「ベイリー英中銀(BOE)総裁とは常に連絡を取り合っている」  
「ロックダウンの経済的影響ははるかに長く続く」

5日 23:51 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「12月発表の ECB 経済見通しは、欧州委員会による見通しと大きく違わないだろう」

6日 00:09 バイトマン独連銀総

「今回の景気後退は春よりも深刻ではない可能性」  
「金融政策を財政政策の代わりにする意志がないことを明確にする必要」  
「緩和的な金融政策を維持することが重要」

6日 00:38 ゴールドマンサックス

「トルコは9月に64億ドル規模の為替介入実施と推計」  
「年初来の介入は1010億ドル相当に」

6日 01:15 メクラー・スイス国立銀行(中銀、SNB)理事

「我々はまだ為替介入の限度まで余裕がある」

6日 01:24 バイデン陣営

「勝利は間近」

6日 04:04 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明

「FRBはこの厳しい局面で米経済を支援するためにあらゆる手段を行使し、雇用最大化と物価安定という目標を促進することに全力で取り組む」  
「新型コロナウイルスのパンデミックは、米国および世界中で多大な人的および経済的苦難をもたらしている」  
「経済活動と雇用はここ数カ月で持ち直したが、年初の水準を大きく下回ったまま」  
「需要低迷と原油価格の大幅な下落は、消費者物価の

上昇を抑えている」

「経済と米家計や企業への信用の流れを支援するための政策措置を部分的に反映して、全体的な状態は引き続き緩和的」

「経済の道筋は、ウイルスの行方に著しく左右されるだろう」

「現在進行中の公衆衛生の危機は引き続き、短期的に経済活動、雇用、インフレの重しとなり、中期的な経済見通しに著しいリスクをもたらすだろう」

「委員会は雇用最大化と長期的な 2% のインフレ率の達成を目指す」

「この長期的な目標を下回るインフレ率が続いているため、委員会は当面、2% をやや上回る程度のインフレ率の達成を目指す」

「これによりインフレ率は時間とともに平均で 2% になり、長期的なインフレ期待は 2% にしっかりとどまる」

「これらの結果が達成されるまで、委員会は緩和的な金融政策の姿勢を維持すると予想する」

「労働市場の状況が委員会の最大雇用の評価に一致する水準に達し、インフレ率が 2% に上昇して当面の間 2% をやや超えるような軌道に乗るまで、この目標誘導レンジを維持することが適切だと予想する」

「円滑な市場機能を維持し、緩和的な金融状況の促進を支援するために、FRB は今後数カ月にわたって、米国債およびエージェンシーローン担保証券の保有を少なくとも現在のペースで増やし、それによって家計や企業への信用の流れを支援する」

「金融政策の適切な姿勢を評価するに当たり、委員会は今後もたらされる経済見通しに関する情報の意味を引き続き監視する」

「委員会の目標の達成を妨げる可能性があるリスクが生じた場合、委員会は金融政策の姿勢を適切に調整する用意がある」

「委員会の評価は、公衆衛生に関連する情報、労働市場の状況、インフレ圧力、インフレ期待、金融と世界の動向を含む幅広い情報を考慮する」

「今回の決定は全会一致。デイリー氏は代替メンバーとして投票」

6 日 04:36 パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長

「2 つの責務 (デュアル・マンデート) 達成に強くコミット」

「経済は引き続き回復している」

「住宅市場は完全に回復」

「労働市場の回復は鈍った」

「最近のコロナ感染拡大は特に懸念される」

「経済見通しは極めて不透明」

「インフレ率は 2% 目標を依然として下回っている」

「今後も資産購入の監視、評価を継続する」

「一部には直接的な財政支援が必要となる可能性」

「危機後の時期が来れば緊急措置を終了する」

「現在、下振れリスクが拡大していることを懸念」

「追加の金融・財政支援が必要になる公算が大きい」

「12 月に経済見通しを修正する予定」

「財政支援は FRB が出来ないことを行える」

「追加財政支援でより力強い回復が実現する」

「状況が悪化すれば新たなファシリティー検討の可能性」

「金融政策の手段は使い果たしていない」

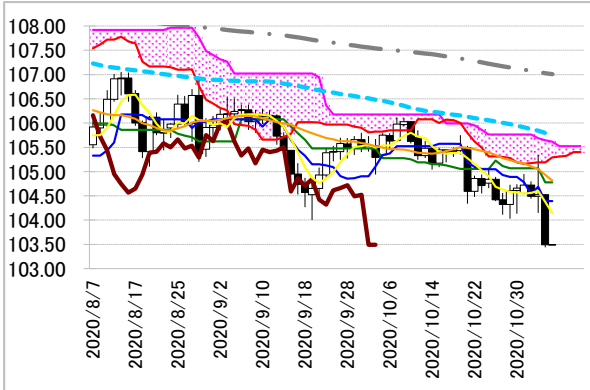
「必要に応じて資産購入の期間や規模、構成の変更は可能」

「本日の会合で資産購入を分析」

※時間は日本時間



## 〔日足一目均衡表分析〕

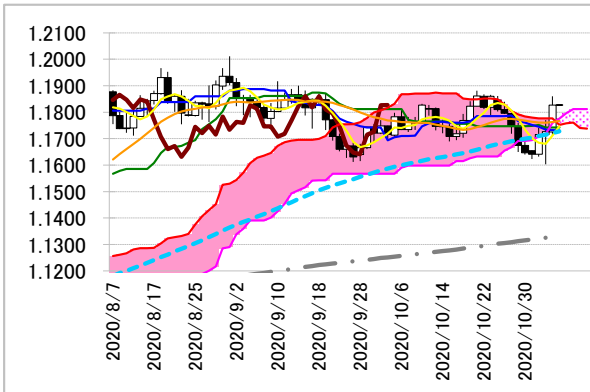


### <ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。抱き線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	104.39(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	103.49
サポート 1	102.02(3/10 安値)
サポート 2	101.19(3/9 安値)

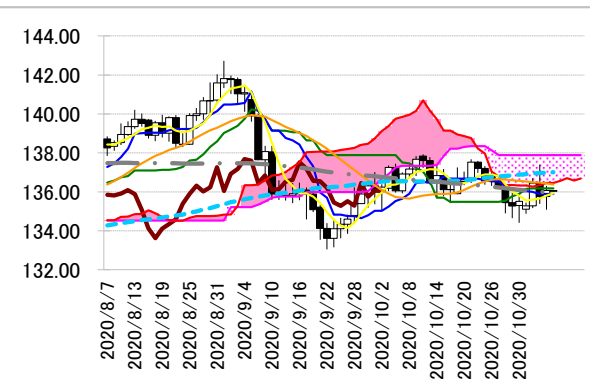


### <ユーロドル＝雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。6手連続陰線で下落後、3手連続陽線で反発して、転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1881(10/21 高値)
前日終値	1.1826
サポート 1	1.1776(日足一目均衡表・雲の上限)

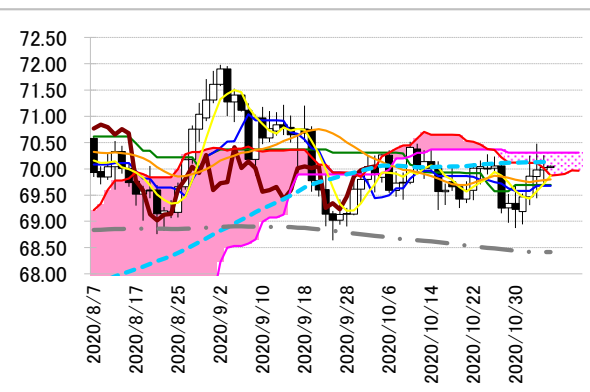


### <ポンド円＝11/5 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、孕み線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、11月5日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	137.88(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	136.07
サポート 1	135.09(11/5 安値)



### <NZドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、4手連続陽線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	70.48(11/4 高値)
前日終値	70.02
サポート 1	69.68(日足一目均衡表・転換線)

